

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0770403558 | | |
| 法人名 | 株式会社 ツクイ | | |
| 事業所名 | ツクイ いわき内郷サンフラワー(けやき通り) | | |
| 所在地 | 〒973-8402 福島県いわき市内郷御殿町3-34 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年12月31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年4月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8043 福島県福島市中町4-20 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年2月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>【けやき通り】</p> <p>季節に応じた年間行事計画を立て、生活に張りや楽しみがもてるよう支援している。体操を日課とし、心身のリフレッシュ、機能維持に取り組んでいる。</p> <p>外部の医療機関と連携し、ご利用者の健康管理や緊急時のスムーズな対応ができ、ご家族にも安心していただける体制を整えている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>1.利用者や職員のコミュニケーションがよくとられており、利用者は落ち着いて穏やかに生活を送っている。</p> <p>2.各種研修への参加報告は内容等を適切にまとめられており、職員のスキルアップに繋がっている。</p> <p>3.日々の経過記録用紙が書きやすく工夫されており、利用者の日々の生活の様子、体調や行動の変化がわかり易く記入されている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 独自の理念を設定、職員はもとより、ご家族やホームを訪れた方にも見ていただけるように掲示をしている。 | 朝礼の際に唱和したり、業務日誌の表紙に綴り込んであり、常に理念を確認しながら共有し、実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 定期的なクリーン活動でのふれあいや避難訓練時や行事などには近隣の方に参加していただくなど実践している。 | 事業所の行事案内などを1軒ずつ配付しているが参加者は少ないため、事業所独自で定期的に近隣のゴミを拾ったり、地域のいきいきデイサービスの開催の時に参加して地域との交流を行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域のいきいきデイなどに参加し、グループホームのことや介護の事についてお話をする機会を頂くことができた。近くにある同法人のデイサービスと交流を図り、地域のご利用者へもグループホームを知って頂くことに努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 質疑応答での意見は全体会議にて全職員へ周知し、改善に努めている。 | 運営推進会議は参加者が家族に偏っていて、地域住民や地域包括支援センター職員の参加が殆どない。会議の内容も家族との話し合いに留まっており、開催数が4回であった。 | 行政や地域側の代表である地域包括支援センター職員、区長、民生委員等へ運営推進会議出席を積極的に声かけし、会議は委員の協力を得て、年6回開催すること。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護相談員の受け入れを継続中。なお、運営等に関して不明な点があれば担当窓口を訪問し、直接話しをするように心掛けている。 | 運営等について相談事がある場合にはその都度、市の担当窓口を訪問している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロ委員会の定期開催を継続。禁止の対象となる具体的な行為の項目を掲示し、意識付けをしている。 | 玄関の施錠はせず、開放している。身体拘束ゼロ委員会を定期的に開催し、具体的な行為を示して、身体拘束ゼロの意識付けをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年間研修計画へも盛り込み必ず実施している。虐待の種類についても掲示し、意識付けをしている。ご家族にも虐待の内容を周知し、該当するようなことがあった場合には直ぐに申し立てて下さるよう説明をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 市内の同法人事業所合同研修を開催、地域包括支援センターの方より制度について学ぶ機会を持つ事ができた。なかなか活用までは繋がっていない現状。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前にも数回にわたり事前面談を行い、細やかな話し合いと聞き取りを実施し、リスク面も含め十分な説明と質疑応答を心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議出欠表に意見・要望を記入できる欄を設けている。玄関には意見箱を設置し、ご利用者・ご家族等の意見や苦情、要望等を吸い上げられるように努めている。 | 家族が事業所を訪問した際に、管理者や介護支援専門員は何でも話せる雰囲気作りをして直接聞き取っている。出された意見は運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議及び個人面談を定期的に行い、意見の抽出を心掛けている。 | 毎月の全体会議や定期的な個人面談で、職員からの意見・要望を抽出できるように心がけている。把握した職員の意見は運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護職員処遇改善の活用により給与や手当の改善を実施。ノーサービス残業も徹底している。資格取得にも積極的な支援をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内研修や、地域GH連絡協議会主催の研修会への参加、希望者には実践者研修への参加を実施している。参加者はその後全体へ伝達し、スキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在、地域GH連絡協議会の研修担当となっていることもあり積極的な交流に努め、ホーム見学などで参考にさせて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご家族も含め、時間を掛けてアセスメントを行い、ご本人の把握に努めている。ご家族にはご本人の馴染みのものをたくさんお持ち頂くように説明している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホーム内見学、料金、準備物、また事業所において対応できる事、できない事等を明確にし、納得して頂いた上で進めている。ご本人とご家族のアセスメントに時間をかけ、要望を抽出している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 申込み時(待機時)に差し障りのない程度で状況をお聞きしている。その上で、他サービスの利用方法も考えられる場合にはアドバイス等を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除、洗濯、調理、配膳、片付け等、職員と共に行っている。お茶の時間は職員も一緒に摂り、家族的な関係作りを心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 体調や状態の変化はもちろんのこと、状況報告をこまめに行うことを心掛けている。ケア方法等の変更についてはご家族に相談し、意見をうかがい、共に介護していることを意識して頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | センター方式による生活暦などの抽出をご家族と行い、以前の生活環境とできる限り近いものになるよう心掛けている。ご家族にも今までご本人の取り巻く関係が続けられるようにお話をさせて頂いている。 | 利用者や家族から以前の生活環境などを聞き取り、馴染みの関係が継続できるよう支援をしている。馴染みの美容室などに利用者の知人が連れて行ってくれたり、事業所に訪ねてきたりしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格や相性等を配慮しながら、席を検討、場合によっては変更している。入居されたばかりの方には職員が会話の架け橋役となつて、関係作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 現状として退所後、ご自宅で生活されている方はおらず、関係性が保たれている方はいない。勿論退所時にはその後介護のことなどでお困りのことなどがあればいつでもご相談して頂きたい旨をお伝えしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの生活歴、仕事、趣味等を把握した上で個別的な対応を心がけている。個々の思いや希望を聴取し、役割や生活の仕方の反映できるように努めている。 | 利用者や家族から生活歴・仕事・趣味等を聞き取り把握して、本人の思いや希望が反映できるように支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式による抽出により把握するように努めている。サービス利用経緯のある方については、先のCMより情報提供を頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 時系列による日々の記録に言動等を具体的に記入することで、情報の把握、共有に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的カンファレンスを開催し個々の課題を抽出、ご家族のからのご意見・評価も聴取し、介護計画に反映させている。 | 定期的カンファレンスを開催し、課題を抽出したり家族の意見や職員の話し等も聞き取り、介護計画に反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 時系列による日々の記録に言動やそれに対する職員のアプローチとどのような反応があったのか、具体的に記入することに努め、ケアの見直しに反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズに対しては即時に対応するように心がけているが、その日、その時に対応が難しい場合はご本人と相談し、日程を決めて実施できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 店舗や食事処を利用する前に必ず下見を行い、安心して利用が行える場所を選定。外出を楽しむことができるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前にご本人の既往と現往歴を把握した上で、ホームの医療連携と緊急対応について説明し、ご家族の意向を確認している。ご家族対応にて先からのかかりつけを継続している方へは、受診前にはご本人の状況を申し送ることに努めている。 | 入居前のかかりつけ医を希望される場合は家族対応で継続して受診できるように支援し、情報については連絡し合い共有している。医療機関から月2回の往診もあり、適切な医療を受けられる体制となっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療機関との連携にて週1回訪問看護による専門的な健康チェックが行われており、その際に日々の健康チェックによる状態の報告や相談を行い、アドバイスを受けている。状態の変化に早期対応も出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療連携体制（訪問診療と訪問看護）が整備され円滑に稼働している。状態の変化への早期対応、早期退院に繋がる体制が出来ている。入院中も面会を継続し、経過と状態把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 「重度化・終末期の対応に係る指針」を作成、ご利用者・ご家族に説明し、同意を得ている。訪問診療においてご家族にも立ち会って頂き、ご本人の病状について、直接医師から説明を受ける機会を大切にしている。 | 重度化・終末期の対応に係る指針があり、入居時に家族に説明し同意を得ている。重度化した利用者には訪問診療時に家族にも立ち会って頂き、医師からの説明を職員と共に聞き情報を共有しながら、より良い看取りへの支援に繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全職員が普通救命救急研修を受講している。その後研修などで振り返ってはいるが、机上のものなので、今後は実技研修を取り入れていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回消防署立会いによる総合訓練を実施している。近所の方にも参加していただくことが出来ている。 | 消防署立ち会いのもと、夜間想定避難訓練を年2回実施しているが、参加出来ない職員は不安を抱えており、近隣住民の協力体制も構築されていない。備蓄は準備されてある。 | 全職員が訓練に参加できるようローテーションを組み、確実な避難誘導が身につけられるよう訓練を繰り返すことが大切である。近隣住民への参加、協力も呼びかけをして欲しい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 年間研修計画に処遇改善とプライバシー保護研修を盛り込み、お客様への対応を再確認する機会を作っている。 | 研修を通し、プライバシー保護の重要性を理解し利用者支援につなげている。排泄への言葉かけも、羞恥心に十分配慮し上手な誘導を行なっている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話の中で出てくる希望を行事や食事等に反映させている。選択肢を持たせ、アドバイスしながらも自己決定ができるように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 希望があれば出来る限り直ぐに対応するように心がけている。希望の訴えのない方に対しても、その方にとってどんな取り組みで好反応があったのか把握しアプローチしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回移動美容室を利用している。馴染みの理美容室に行きたいという方には継続できるよう支援している。外出時はおしゃれができる絶好の機会として支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 料理の本や広告を一緒に眺め、食べたいものを聞き取り、メニュー作成に反映させている。お茶の時間は一緒にしているが、食事を一緒に摂ることについては食事介助の兼ね合いもあり今後の課題である。 | 利用者の食べたいものを聞き取り、一緒に考えながら献立を作成している。食事作りには利用者はかかわっておらず、利用者にはテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。職員と一緒に食事を摂っていない。 | 利用者の残存能力を引き出す上からも、利用者の出来る材料の下ごしらえや食器拭きなどの作業を手伝ってもらう等の支援をし、職員も一緒に同じ食卓を囲む等が必要だと思われる。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食に摂取量チェックを行うとともに、一日の水分摂取量をチェックしている。咀嚼(義歯の状態)、嚥下機能を把握し、個々に合わせた食形態を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを実施。義歯装着の方は就寝前に薬剤洗浄を行っている。治療が必要な方、義歯が合わないという方は歯科受診を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用、個々の排泄のリズム把握し、失禁を最小限とできるよう努めている。身体機能が低下してきた方でも出来る限りトイレで排泄が出来るように支援している。 | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄間隔に合わせて誘導をし、トイレで排泄出来るように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表と水分チェック表を活用、申し送りを徹底して管理している。下剤だけのコントロールだけでなく、食事提供にも工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日入浴できる体制はできているが、実施時間については固定されてしまっている。足の浮腫や冷感のある方に対し、足浴も実施している。 | 事業所は入浴の準備を毎日行い、時間帯は午後固定されているものの、毎日でも入浴は可能である。入浴を好まない利用者には言葉かけやタイミングを工夫し入浴を促している。入浴剤を入れたり、湯上りには保湿クリームの塗布などを行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室にはご自宅で使用していた馴染みのものを数多く持ち込んで頂き、ご本人が安心して過ごすことのできる空間になるよう意識している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 管理者、計画作成担当者が中心となり医師と個々の状態と服薬について検討している。服薬の変更があった場合には直ぐにその目的と効用を周知し、その後の症状の変化の把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴と現在の心身機能の状況に合わせて、ご本人がいきいきとして取り組んで頂けるものを見出し、役割として定着できる支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 明確な希望、要望があったときには直ぐに対応している。なかなか希望が出ない方に対しても会話の中で思いを引き出し、外出先に反映できるよう心がけている。また、ご本人の家族への要望もお伝えしている。 | 天候の良い時は、近隣への散歩や要望があれば買い物等の支援を日常的に行っている。春は花見、秋は紅葉狩り、その他レストランでの外食支援等、外出のイベントも計画的に行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在個々の現金は預っておらず事業所立替としているが、希望がありご家族の了解のもと現金を所持している方もおられ、欲しいものがあれば一緒に買い物へ出掛ける支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ホームの電話にて、自由にご家族等への通信をして頂いている。手紙のやりとりの支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じられるような飾りつけをし、生活に温かみを感じられるよう心がけている。飾り物や張り紙は目の高さに合わせて掲示し、気づきを促す工夫をしている。 | 日当たりが良く明るい食堂、広々とした廊下の壁には、利用者の今年度の目標や抱負、手作りの作品等が見やすく掲示されており、共有空間全体が清潔で居心地良く過ごせる場所となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 作業や行事によってテーブルの並びを変え、コミュニケーションをとり易い配置を行っている。小上がりの和室と、ソファーでもくつろいで頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | 入居時にご自宅で使っていた馴染みのものを数多く持ち込んでいただくよう、ご家族にお伝えしている。また、各居室には内側から施錠ができるようになっており、プライバシーが守られている。 | 居室は自宅から持参した馴染みのペットやタンス等を本人が使いやすいように配置したり、部屋の装飾は好みや希望で行っており、一人ひとりの部屋は個性的で本人にとって、居心地良く安心して過ごせる場所になっている。部屋は内側から施錠が出来るようになっており、利用者の安心に繋がっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 内部は全てバリアフリーになっており、安心・安全に過ごすことのできる構造になっている。分かりにくい場所には目の高さに誘導を促す張り紙をし、ご自身でも気づくように促している。 | | |